

大阪府景気観測調査結果

平成21年4～6月期

大阪府立産業開発研究所では、府内企業を対象として四半期毎に、大阪市と協力して景気観測調査を実施しております。平成21年4～6月期の調査結果の概要は次のとおりです。

[景気は、一部に持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況にある]

業況判断DIは足もとで持ち直しているが、未だ低い水準にある。出荷・売上高DIや営業利益DIは低下しているが、そのペースは緩んでいる。また、製・商品単価DIは5四半期ぶりに上昇に転じている。一方で、設備投資は減少、資金繰りDIはやや低下、雇用では強い過剰感が続くなど、景気は未だ厳しい状況にある。

[調査結果の要点（平成21年4～6月期）]

業況判断 ... 上昇するも、依然として低い水準

平成21年4～6月期の業況判断DI（「上昇」 - 「下降」企業割合；前期比、季節調整済）は - 50.8 となり、前回調査（21年1～3月期）と比べると、9.3ポイント上昇。業種別や規模別では、前回調査と比べ、製造業で17.2ポイント上昇、非製造業で4.4ポイント上昇、大企業で9.0ポイント上昇、中小企業で7.8ポイント上昇。

業況判断（前期比）の上昇要因を前年同期の調査と比べると、「内需の回復」、「輸出の回復」が増加。

出荷・売上高 ... 低下のペースは緩んでいる

売上高DI（「増加」 - 「減少」企業割合）は - 53.8 となり、前年同期の調査と比べ、26.5ポイントの低下。前回の同34.0ポイント低下に比べると7.5ポイントの改善であり、低下のペースは緩んでいる。

製・商品単価及び原材料価格 ... 製・商品単価は5四半期ぶりの上昇、原材料価格は低下が続く

製・商品単価DI（「上昇」 - 「下落」企業割合）は、前回調査と比べ3.9ポイント上昇の - 36.8 であり、5四半期ぶりの上昇。製造業でほぼ横ばい、非製造業、大企業・中小企業で上昇。原材料価格DI（「上昇」 - 「下落」企業割合）は、前回調査と比べて2.0ポイント低下の - 8.0。製造業・非製造業、大企業・中小企業いずれも低下。

営業利益 ... 低下のペースは緩んでいる

営業利益判断DI（「黒字」 - 「赤字」企業割合）は - 42.4 と、前年同期の調査と比べ、33.9ポイント低下。前回の同33.5ポイント低下に比べると、ほぼ横ばいである。また、営業利益水準DI（「増加」 - 「減少」企業割合）は - 52.7 と、前年同期の調査と比べ、19.8ポイント低下。前回の同30.9ポイント低下と比べると11.1ポイントの改善であり、低下のペースは緩んでいる。

資金繰り ... やや低下

資金繰りDI（「順調」 - 「窮屈」企業割合）は - 18.8 と、前回調査と比べ1.5ポイント低下。（前回は同3.2ポイント低下。）

設備投資 ... 減少

設備投資は前回調査と比較して「増加」は低下、「減少」は低下、「なし」は上昇、前年同期の結果と比較して、「増加」は低下、「減少」は上昇、「なし」は上昇と、設備投資は減少。

雇用状況 ... 過剰感は少し和らぐが、依然として高い水準

雇用過剰感DI（「過剰」 - 「不足」企業割合）は19.8であるが、前回調査より1.0ポイント改善。製造業で低下、非製造業でほぼ横ばい、中小企業で低下。一方、大企業では上昇。21年7～9月期の雇用予定人員DI（「増加」 - 「減少」企業割合）は - 12.4 で、前年同期の調査と比較し、10.0ポイント低下。

来期の業況見通し ... 増加するも、依然として低い水準

21年7～9月期の業況見通しDI（「上昇」 - 「下降」企業割合；季節調整済）は - 45.8 と、今期業況判断（季節調整済）と比べ、5.1ポイント増加の見通しである。

出荷・売上高における底入れの見通し

昨今の経済情勢のなか、各社の出荷・売上高における底入れ時期の見通しについて、「わからない」（49.9%）、「21年10～12月」（12.8%）、「21年7～9月」（10.4%）、「21年6月まで」（7.3%）の順であった。

調査結果に関するお問い合わせは (06)6947-4363

大阪府立産業開発研究所 調査研究部 動向調査研究グループまで